

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28166 社会を科学する！理想の社会をデザインし、政治家へ提案してみよう！



開催日：平成28年11月19日(土)

実施機関：岐阜大学

(実施場所) (岐阜大学全学共通教育棟)

実施代表者：田中 伸

(所属・職名) (岐阜大学 教育学部 准教授)

受講生：中学生12名

関連URL：www.nobolta.com

【実施内容及び留意・工夫した点】

本プログラムは、第1に政治や政策、社会問題を科学的に分析する方法論の獲得、第2に主権者として社会を創造する視点・観点の獲得を目的として実施した。受講生にわかりやすく研究成果を伝え、活発な議論ができるように、プログラムは講義、演習を交互に複数回実施する構成で実施した。各構成の要点は以下のとおりである。

○講義

以下3回の講義を行った。第1回は「社会を科学的に見る方法」。社会を論理的・批判的に分析する方法論を示した。第2回は「社会問題の評価方法」。社会問題を地理的・歴史的視点から分析・評価する方法論を示した。第3回は「社会と自分の対話」。社会を自身と離れた存在ではなく、自らが巻き込まれている枠組みと捉える方法論を示した。

○演習

以下2種類のアクティブワークを行った。第1は「リアルな政治を分析しよう」として、チームに分かれ、現在の政治や政策、及び現在見られる社会問題等を分析し、その現状・課題・解決策を政策レベルで分析した。第2は「分析結果のプレゼンテーション」として、議員へ分析結果を提案した。提案内容は、議員のコメントとともに、再度チームへ戻すことで、提案の再検討を行った。

【当日のスケジュール】

当日は、「社会と科学」「科学的方法論の応用」「社会との対話」の3部構成で実施した。各部の詳細は以下のとおりである。

(1) 第1部：社会と科学

10:05-10:35 講義①「社会を科学的に見る方法」ツールミン・モデルの使い方

10:35-11:05 講義②「社会問題の評価方法」ツールミン・モデルの応用

11:05-11:15 休憩

11:15-12:00 演習①「リアルな政治を分析しよう1！」岐阜市公共施設総合管理計画の概要、岐阜市で進んでいる計画の現状、MQ:「未来の公共施設(岐阜市)をどうするか？」

12:00-13:00 昼食・休憩

(2) 第2部：科学的方法論の応用(社会の分析)

13:00-13:15 演習②「リアルな政治を分析しよう2！」MQ:「未来の公共施設(岐阜市)をどうするか？」

13:15-13:40 演習③「分析結果のプレゼンテーション」提案時間 25 分

13:40-13:50 「議員からの評価・コメント」MQ:「アイデアを政策に変えるには？」

13:50-14:10 クッキータイム

14:10-14:50 演習④「リアルな政治を分析しよう 3！」中学生・議員・教員・大学生のグループワーク
MQ:「アイデアを政策へ。政策を立案しよう」

14:50-15:25 演習⑤ 政治家へ提案「未来社会を創造しよう！」提案時間 25 分、全体討論 10 分

15:25-15:35 休憩

(3) 第 3 部：社会との対話

15:35-15:55 議員からのコメント (4 名×5 分)

15:55-16:30 演習⑥「リアルな政治を分析しよう 4！」MQ:「政策を修正しよう」中学生・議員・教員・
大学生のグループワーク、議論 20 分・発表 15 分 (3 分×5 班)

16:30-16:35 休憩

16:35-16:45 講義③「社会と自分の対話」

16:45-16:55 未来博士号授与

16:55-17:00 修了式、アンケート記入

【実施の様子】

当日は、上記スケジュールに基づき実施した。各講義、演習中の様子は以下の写真である。



プログラム前半は、科学的思考の方略として、ツールミン・モデルに基づく議論の方略を理解・獲得する講義・演習を行った。プログラム後半は、「岐阜市の公共施設の課題点を見つけ、その改善策を考えよう」という問いを設定し、中学生・大学生・教員・政治家が 1 チームとなり、チーム毎に 30 年から 40 年後の岐阜市における公共施設のあり方を議論し、政策として立案し、政治家へ提案した。政治家は提案を吟味・検証し、各チームへ反論。その反論を受けて、各チームは政策を再修正し、政治家へ再度提案した。この手続きを 3 度繰り返し、現実社会の文脈で政策論争を行った。

【事務局との協力体制】

- ・教育学部管理係が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。
- ・日本学術振興会への連絡調整と、提出書類の確認・修正等を研究支援課研究支援係が主体的に行い、教育学部総務係がサポートした。
- ・参加申込の受付、抽選、連絡と保険の手続きを教育学部総務係が行い、研究支援課研究支援係・教育学部総務係が実施代表者と連携し広報活動、受講生募集を行った。

【広報活動】

- ・教育学部総務係が、岐阜県教育委員会をはじめ近隣の小学校や中学校、新聞マスコミ等に対して、代表者・分担者とともに本事業のPRに努めた。
- ・研究支援課研究支援係は大学HPに、代表者は代表者が開設している研究室のHPに本事業の開催案内・参加者募集案内ページを作成掲載した。
- ・実施分担者が所属先である教育学部附属中学校の生徒への広報を行った。
- ・JR岐阜駅に4週間、本事業の開催案内・参加者募集案内のポスターを掲示した。
- ・岐阜市立図書館（みんなの森 ぎふメディアコスモス）に規定期間内、本事業の開催案内・参加者募集案内のポスターを掲示した。

【安全配慮】

- ・講師、TA（学生・院生）等による机間指導を行うと共に事前研修で指導の際の注意事項を確認した。
- ・実施者及び実施協力者（講師・学生）・受講者全員は、傷害保険に加入した。

【プロジェクトの成果、及び今後の発展性・課題】

今年度、初めて本プログラムを実施した。成果は主に以下2点である。第1は、政治家を交えて対話を行うことで、学級内では理想的な結論に陥りやすい政策分析・立案の議論が、現実社会の文脈に基づいた議論を展開することができた。第2は、生徒の価値判断・意思決定を科学の手続きに基づき複数回繰り返すことで、各々の判断・決定に至る立論構造に変化が見られた。中学校における主権者教育実践のあり方として、これら2点の成果を得られたことは大きいと言える。

今後の発展性及び課題は以下3点である。第1は、実施時間である。度重なる政策分析、及び議員との対話により、時間が不足する場面が見られた。プログラムで求める政策分析の深度をより精緻に設計し、プログラム（主に第2部と第3部）の手続きを再検討してゆく必要がある。第2は、受講生の確保である。事前の連絡などを行うなど対策は行っていたが、当日の急病で欠席者が出たこともあり、想定より受講者が少なくなってしまった。今後は急なキャンセルを見越して募集人数+ α の受講生を確保できるように広報活動に努めたい。第3は、今後の研究方略として、通常の社会科カリキュラム内への応用である。本プログラムは学級の社会科教育実践を社会と繋げてゆくものである。実施分担者が所属する学校を中心として、通常のカリキュラムへ応用することが望まれる。

【実施分担者】

前田 佳洋 岐阜大学教育学部附属中学校・教諭
矢島 徳宗 岐阜大学教育学部附属中学校・教諭
平野 孝雄 各務原市教育委員会学校教育課・指導主事

【実施協力者】 8 名

【事務担当者】

内田 真由 岐阜大学教育学部総務係（広報・受講生や協力者との事務連絡手続き・運営補助）
林 龍介 岐阜大学学術国際部研究支援課・事務職員（ひらめき☆ときめきサイエンス 渉外担当）